



1 月 号  
平成 31 年 1 月 24 日

# 桜花爛漫

郷土を舞台に 夢に向かい ともに歩む学校

心豊かで  
たくましい 荘川っ子  
・ 考る子  
・ 思いやりのある子  
・ 元気な子

## 前向きな気持ち

校 長 水 口 悟

### 鶏始めて乳す(にわとり はじめて にゅうす)

鶏が卵を産み始めるころ。かつて鶏の産卵期は、春から夏にかけてです（新暦では、およそ一月三十日～二月三日ごろ 日本の七十二候を楽しむより）



新年を迎えた校舎の空気は、凜としていて‘シーズン4：冬（まとめ・感謝）’へのスタートにとっても相応しい感じがしました。今年度、高山市の小中学校全てが3学期制から2期制に変更をしました。本校では、ふるさと荘川にふさわしい春・夏・秋・冬の節目を大切に4シーズン制として進めてきました。なかなかいい感じです。いよいよ最終のシーズン、約45日間です。

### ◇ ひとり歩きのできる子を、手厚く鍛え抜きます！

11日には、早速各教室で書き初め会が行われました。どの教室に入っても、新年の凜とした空気に加えても落ち着いた空気を感じました。仲間の書に気を配りながらも自分の書には徹底的に集中し厳しく向かう姿が見られました。高学年になればなるほど、習字道具や古新聞等の使いこなしや間もとり方がよく、落ち着いて少々のことで集中力は乱れません。15日間の冬休みを経ても、子どもたちの力は萎えてはいません。初日にこれだけ研ぎ澄まされた姿を見ると、子どもたちの成長ぶりは、凄いな、遅くなったなと嬉しくなります。まちがいなく、一人一人は、少人数のよさを生かした指導のもとで、手厚く鍛えられています。先生たちは、みなさんの成長に越されないように、最後の最後まで手厚く鍛え抜きますので、覚悟をしておいてくださいね。

### ◇ ひとり歩きのできる子の、ふるさと荘川

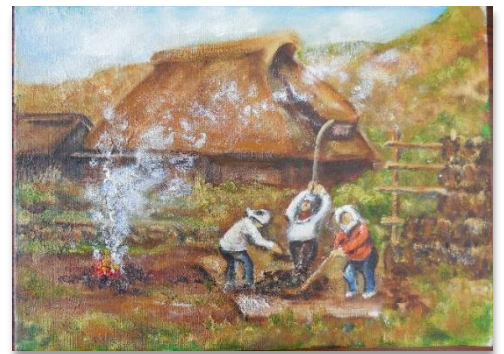
年末に‘山下晴彦さん’という方から、電話がありました。○私は荘川町出身者であり、昭和34年度に荘川村立荘川小学校を卒業し、現在は各務原市に住んでいること ○ふるさと荘川が大好きで、荘川の原風景を忘れないようにしたくて油絵を描きためてきたこと ○荘川の昭和30年代の米作りの様子を思い出しながら描いたこと ○描きためてきた作品18点を出身校である荘川小学校に寄贈したいこと。

感謝感激し、それでも山下晴彦さんをご存じの方は、現在も荘川町の中にいるはずと、いろいろな方に尋ね、情報を収集してみました。同級生の方々もたくさんみえるとか・・・。

「雪どけ春待つ」「田起こし」「青稲風」「秋祭り」「脱穀」「粃すり」・・・大きな包みを開いてみると、油絵の具の臭いもぷ～んとすてきなタイトルのついた油絵が出てきました。水彩画と異なり、油絵の具の厚みが力強さを表しています。4号・6号・8号のキャンパスに描かれた米作りの様子は、実に見応えがあります。上の絵のタイトルは、「豆殻落とし」です。

遠く離れていても、ふるさと荘川にいつまでも心を寄せ、母校に寄贈するためにふるさとを思い出しながら、絵を描きためている方がいる・・・、やっぱり・改めて・ずっと、荘川はすばらしいところです。

荘川桜が咲く頃に、母校に山下晴彦さんをお招きし、18点の油絵から「荘川の米作り物語」を聞かせて頂きたいなと思います。



**お知らせ** 雪不足のために、スキー場を変更しスキー教室を開催しています。環境が変わっても、落ち着いて学ぶ姿勢は実にすばらしい！保護者・地域の方々には、ご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。